

2023

# 和をモチーフにした装飾文字

Japanese decoration handwriting

AD 26 谷島 大一  
指導教員 佐久間 善典

## 1.研究目的

私は昔から文字に興味があり、授業で勉強したアールヌーボーのような装飾文字を自分でも作ってみたいと思い、文字を自分なりに研究した。文字にはアルファベットに代表されるような表音文字と、漢字に代表されるような象形文字をベースとした、表意文字の二種類があり、この二つにはそれぞれの良さがある。その二つの良さの融合を計れるのではないかと思いい、研究目的とした。

## 2.調査と分析

ビジュアル的な要素を持った、アールヌーボーの装飾文字は、植物が文字にまきついていたたり、文字のふちに模様が施されていたりと、とても煌びやかなイメージになっている。

日本には、それらの装飾と同じように日本独特の植物や伝統的な文様などがたくさんある。例えば植物であったら、桜や椿であったり、伝統的な事柄であったら折り紙や能であったりと、それらを装飾として組み込めば、日本風の装飾文字ができる。

日本独特の文様などは、日本固有の伝統や雰囲気などを表現していたり、日本特有の美意識などを持っていると考える。

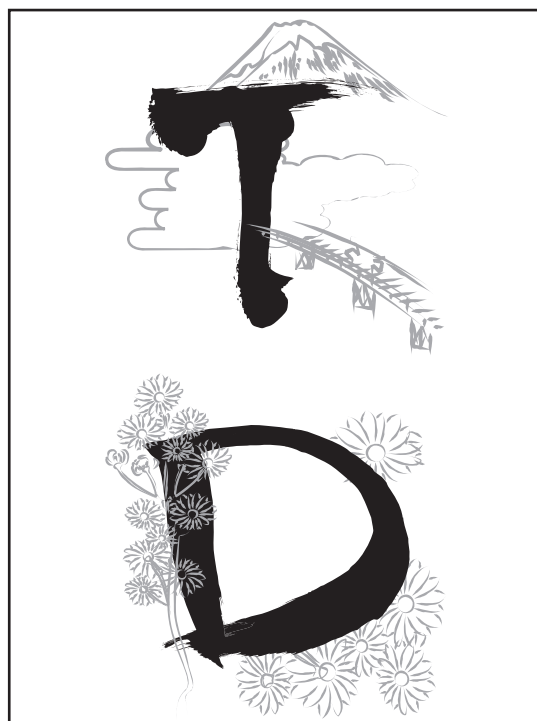
## 3.コンセプトの立案

表音文字であるアルファベットに、日本独特の伝統的な模様や文様を使って装飾することにより、海外の人にも、文字のイメージを通して日本の伝統的な雰囲気や、美意識などを感じてもらえるような、装飾文字を作る。

## 4.デザイン展開

- 日本の特徴である四季を強く反映しているのが衣服なので、昔から伝わっている着物の文様などのデザインを装飾として組み込む。
- アルファベットの形は筆文字にする。それによって日本の伝統的なイメージを強く表現する。
- 縦組にも対応できるように、全角のボディーを想定し、そこにアルファベットの大文字と模様を配置しながら、バランスを調整する。

## 5.完成図



## 6.結論

日本のイメージを持った装飾を、筆を使って描いたアルファベットにバランスよく入れることができた。全体的なイメージも、日本色を力強く表現できていると感じた。

文字の装飾にハーフトーンを使ってしまったが、網点などの処理を施して、文字としての汎用性をもっと持たせたかった。しかし技術的な面から断念せざる終えない結果となってしまったので、それらを改善することができたら、装飾文字としての完成度が高くなったのではないのかと思った。

またアルファベットと文様の組み合わせを完成させても、全体として見たときに小さく感じたり、細く感じたりする文字があり、全体のバランス調整が難しかった。

## 7.参考文献

- 長崎巖・弓岡勝美編, 2005, 『きもの文様図鑑—明治・大正・昭和に見る』平凡社.
- 本間伯亭, 1997, 『小筆字の美しい書き方—やさしく学ぶ細字の基本』新星出版社.